

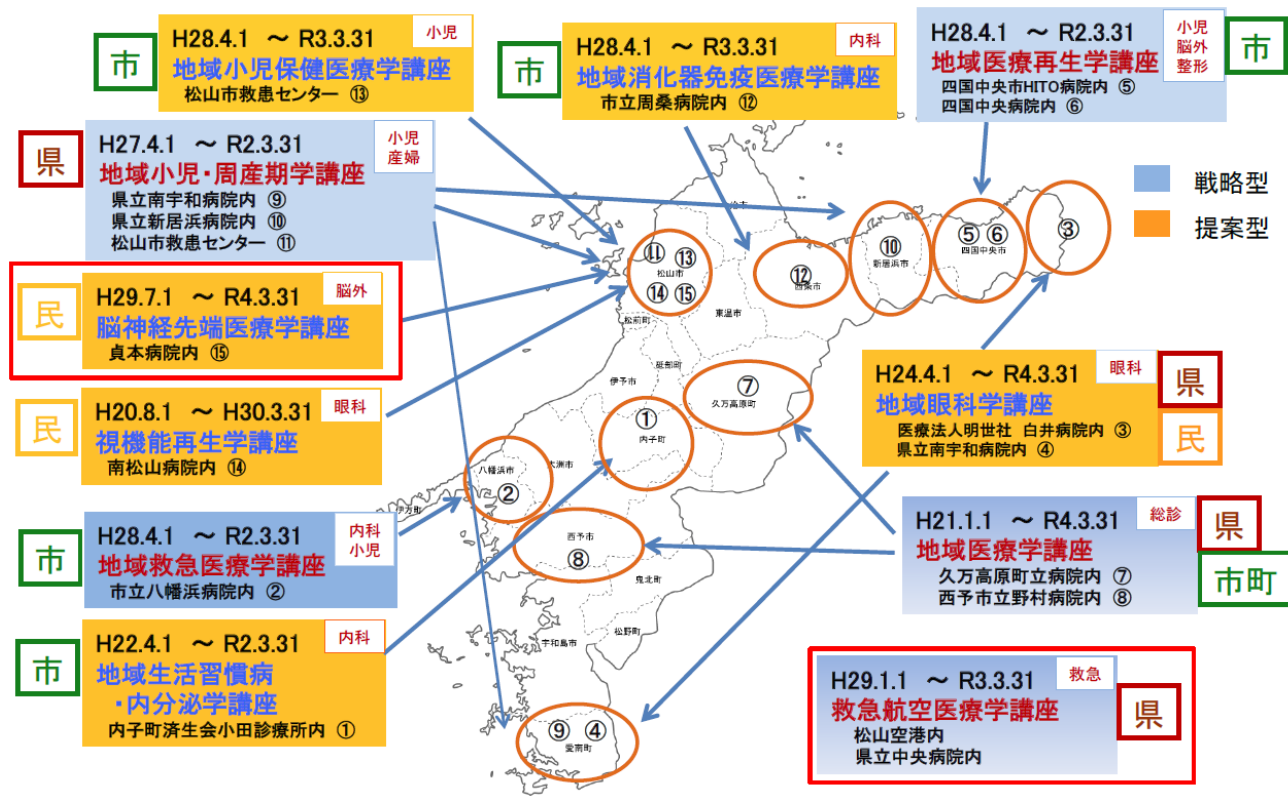
授 業 科 目 の 概 要			
(医学系研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生活支援看護開発学特講	<p>(概要) 病院および在宅で生活・療養する対象者の健康レベルを適切に評価した上で、健康レベルに応じた生活支援と快適ケア技術の開発と研究に必要な知識と研究技法について修得する。また、健康レベルを正しく評価して実践するためには、各病床機能の特徴や支援体制をふまえ、多職種と連携を図ることが必要である。在宅移行に向けて対象者や対象者を取り巻く様々な健康課題を包括的に捉えてそれを解決するためにどのようなケア技術や社会資源が有効か、ディスカッションしながら必要な知識ならびに実践できる能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 佐伯由香/2回)</p> <p>オリエンテーション：本特講の概要と進め方 快適ケア技術とその評価方法について生理学的手法を用いた方法を中心に学修し、看護実践における応用を考察する。 (1 乗松貞子/1回) 病院及び在宅における快適ケア技術について具体的な実践方法やその効果について学修し、新しい快適ケア技術について考察する。 (11 赤松公子/1回) 痺れ等の知覚機能の評価ならびにその緩和方法を学修し、日常生活においてQOLを高めるケアについて考察する。 (2 八杉巧/1回) 循環器疾患に関する病因や経過を理解し、全国で展開されている地域包括ケアシステムの具体的事例を紹介し、効果的な在り方を議論する。 (7 谷向知/1回) 認知症に関する病因や経過を理解し、全国で展開されている地域包括ケアシステムの具体的事例を紹介し、効果的な在り方を議論する。 (4 山内栄子/2回) 地域で生活する人々の健康課題やその影響要因、高度急性期・急性期の医療や地域包括ケアの現状について国内外の研究を吟味し、地域包括ケアシステムにおける高度急性期・急性期の医療および看護の課題について考察する。 (3 薬師神裕子/2回) 小児慢性疾患ケアをモデルに在宅移行支援の確立方法と医療的なケアが必要な人々の生活支援における課題と現状について学修する。回復期・慢性期医療からの在宅移行支援における看護師の多職種との連携方法と重要性について考察する。 (12 田中久美子/2回) 要高齢介護者の在宅ケアについて、要介護者ならびに介護者の視点から訪問看護等のケアシステムについて議論を深める。在宅で過ごすための生活支援の方法について科学的な根拠に基づきケア論を展開する。 (5 崎山貴代/2回) 妊娠・出産・育児を取り巻く社会および医療情勢と地域社会の課題、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの尊重を基盤とした地域包括ケアの実践および研究の現状と課題について考察する。 (6 佐伯由香/1回)</p> <p>まとめ：学修したことを統合して、各学生の専門性に合った対象者の健康課題を抽出し、それを解決するための対策をディスカッションする。</p>	オムニバス方式
	地域看護システム開発学特講	<p>(概要) 組織論や人材育成についての基本的な考え方に関する学修をふまえたうえで、地域包括ケアシステム構築のために課題を抱える実践現場の実態およびケアの質を科学的な視点で分析し、ケア提供施設や地域の特性に応じて、より効果的で効率的な生活支援が実施できる組織間連携も含めたケアシステムの構築について議論する。 (オムニバス方式/全15回) (8 西嶋真理子/1回)</p> <p>オリエンテーション：本特講の概要と進め方について解説する。地域支援事例をもとにケアシステム構築に必要な観点を議論し、本特講における学生自身の学修課題を意見交換により明確にする。 (19 青山 ヒフミ/3回) 保健医療福祉の動向を踏まえた上で時代の流れをつかみ、医療機関で起こっている変化に即した看護管理、組織論、組織デザインについて学修する。看護管理の考え方の歴史的变化から、現在の管理に要請されるリーダーシップについて、各種のモチベーション理論に関連づけて議論する。また看護管理の要素とプロセスについて、意思決定や看護管理過程の面から学修し、施設と地域をつなぐチームビルディングに関して考察する。 (20 松浦 正子/2回)</p> <p>組織として地域のニーズに効果的に機能するための看護のキャリア開発、人材育成について学修し、看護の質保証のための組織の役割について議論する。また看護政策の変遷からこれからのチーム医療における看護職の役割について考察する。 (8 西嶋真理子/1回)</p> <p>管理的な視点の学修から明らかになった、学生の実践領域や所属する組織が地域包括ケアシステムにおいて役割を果たすための課題と課題解決の方法について議論する。 (9 陶山啓子/2回)</p> <p>様々な健康レベルの高齢者を対象としたケア提供施設におけるケアの質評価とその要因分析に基づき、質改善のために必要な人材育成、施設間・多職種連携の方法を学修し、高齢者が地域で暮し続けるために必要なケア提供システムやマネジメントについて議論する。 (10 藤村一美/2回)</p> <p>ファミリー・バイオレンスやジェンダーの観点から見落とされがちな健康問題について、課題の発見、共有と分析、強みを生かした解決方法の検討の過程を学修し、地域参加型予防システム開発のオーガナイザーとしての役割や課題について議論する。 (8 西嶋真理子/2回)</p> <p>個別の支援から組織的な支援へと発展させた過程で、住民同士の支え合いや多職種連携による障害児やその家族のQOLが高まるケアシステム構築に着目し、各段階で看護職が果たす機能について学修する。地域の強みとなる資源を活用し、健康課題に応じた効果的なケアシステムの開発や子育て世代のヘルスニーズに対応する子育て世代包括支援センターのありようを議論する。 (8 西嶋真理子/2回)</p> <p>これまでに学修したことや学生の実践経験を踏まえて、地域包括ケアを推進していくために必要な組織デザイン、チームビルディングあるいは人材育成についてレポートを行い、看護の立場から当事者や家族の視点を重視した地域包括ケアのあり方を議論する。</p>	オムニバス方式

	地域包括ケア演習	<p>(概要) それぞれの研究課題に応じて、中山間地などの地域やその地域の保健・医療・福祉サービス提供機関等を選択し、フィールドワークを行う。フィールドワークの成果と多角的な文献検討を通じて、地域包括ケアの推進に必要な看護技術開発・実践モデルや看護ケアシステム開発に活用できる研究課題を明確にする。</p> <p>(オムニバス方式/全22回)</p> <p>(9 陶山啓子/1回) オリエンテーション</p> <p>(9 陶山啓子、8 西嶋真理子、7 谷向知、10 藤村一美、12 田中久美子、13 城賀本晶子、/4回) 研究課題とフィールドワークの目的・方法の明確化 ・学生自身の看護実践に基づく地域包括ケアを推進するための課題とその背景を明確化し、フィールドワークの目的・方法を決定する。 ・フィールドワークの目的・方法及び研究課題をプレゼンテーションし、教員や学生とディスカッションする。</p> <p>(9 陶山啓子、8 西嶋真理子、7 谷向知、10 藤村一美、12 田中久美子、13 城賀本晶子/12回) フィールドワークの実施 フィールドは、愛媛大学医学部寄附講座地域サテライトセンターがある地域で実施する。 ただし、必要に応じて、学生の実践フィールド等それ以外の地域、サービス提供機関でも実施する。 ・愛媛県西予市野村町(西予市立野村病院、地域包括支援センター、高齢者施設等) ・愛媛県久万高原町(久万高原町立病院、保健センター、高齢者施設等) ・愛媛県愛南町(県立南宇和病院、保健センター、御荘病院、高齢者施設等)</p> <p>(9 陶山啓子、8 西嶋真理子、7 谷向知、10 藤村一美、12 田中久美子、13 城賀本晶子、/2回) フィールドワークの成果発表 ・対象者が住み慣れた地域で暮し続けるための健康課題とその要因 ・フィールドで実践されていた健康課題解決のための方策 ・フィールドで実践されていた地域包括ケアを推進するための方策</p> <p>(9 陶山啓子、8 西嶋真理子、7 谷向知、10 藤村一美、12 田中久美子、13 城賀本晶子、/3回) フィールドワークの成果に基づいて、地域包括ケアを推進するための看護ケア方法・実践モデル・看護ケアシステム等の開発のための研究課題と方法をまとめて、発表する。</p>	オムニバス方式 共同(一部)
関連科目	地域医療学	<p>(概要) 地域医療の概念、地域医療の歴史について学び、地域医療学は臨床医学や社会医学、基礎医学、社会学などのあらゆる分野の学問が包括された学際的な学問領域であることを理解する。過疎化、少子・高齢化、が進行しつつある現状踏まえ、地域のなかで、地域医療の在り方、多職種の連携の在り方について学修する。平穏時における救急医療、その後の生活視点における医療の役割についてわかりやすく解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 谷向知/3回) 認知症高齢者の医療の現状と課題 発達障害から認知症までのシムレスな生活支援を見据えた医療 災害時・避難所における認知症、児童の支援</p> <p>(4 山内栄子/2回) がん医療において看護師が果たす役割 がんサバイバーが地域で暮らすための各時期における看護実践と支援</p> <p>(14 川本龍一/2回) へき地を含む地域の予防医学、プライマリ・ケア、総合診療の現状 へき地における効率的な医療支援システムなどに関する教育システム(研修プログラム)の開発</p> <p>(16 檜垣高史/2回) 周産期医療の現状と課題 我国とモンゴルの小児医療の比較から見る現状と課題 災害時における母子の支援</p> <p>(15 佐藤格夫/2回) 平穏時における救急医療の現状と役割、課題 地域医療再生を担うドクターヘリ、広域搬送の役割と課題 災害時における救急医療の現状と役割、課題</p> <p>(18 長野敏宏/2回) 精神医療を通して、精神障がい者、高齢者とともに生きる地域再興 西日本豪雨災害における活動とそこからみえてきた災害医療・福祉・行政との連携の在り方</p> <p>(21 櫃本真幸/2回) 政策医療の視点からみた地域医療 地域連携論 ～医療・介護・福祉の協働と包括的支援～</p>	オムニバス方式

関連科目	応用統計学	<p>(概要) 質的あるいは量的な研究において必要とされる統計学の概念、ならびに統計手法について、統計ソフトであるSPSSやSASを用いて学習する。また、論文クリティークを通じてデータを読み取る力を身につけ、統計学に基づく理論的構築の考え方を習得する。基本的な統計学を理解した上で、その応用となる一般線形モデル、共分散構造分析、階層化モデル等を理解し、実践の中で使えるようになることまでを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 赤松公子/8回) ①オリエンテーション 授業の目的と進め方 ②看護実践で発見した現象を量的データとして収集・整理する手法 ③質問紙の構成と研究デザインに適した統計手法の決定 ④統計解析の論文中の記載方法 ⑤看護研究論文における統計の応用について 論文クリティーク1 ⑥看護研究論文における統計の応用について 論文クリティーク2 ⑦看護研究論文における統計の応用について 論文クリティーク3 ⑧意見交換とまとめ</p> <p>(17 齊藤功/7回) ①多変量解析とモデルの構築 ②一般化線形モデル、階層化モデル ③因子分析、共分散構造分析 ④生存時間解析 ⑤メタアナリシスの考え方と方法 ⑥統計ソフト (SPSS) を用いた分析 ⑦統計ソフト (SAS) を用いた分析</p>	オムニバス方式
	研究方法特講	<p>(概要) エビデンスを基盤とした最良の地域包括ケアを提供すべく、地域包括ケアに関連するケアやシステムの開発、実践および検証に必要な研究方法を理解し、応用する能力を養う。また、介入研究や疫学研究、エスノグラフィーの手法を学修するとともにプレゼンテーションやディスカッションを通して、現象の理解、高度な看護実践およびケア成果の検証につながる研究方法について学修する。また、国際的な場で発表するための手法を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 佐伯由香/2回) オリエンテーション：本特講の概要、意義、進め方について概要する。 実験研究：研究デザイン、測定指標ならびにその評価方法について学修する。 (4 山内栄子/3回) 質的研究：インタビュー調査、その内容分析、質的記述的研究方法について学修する。 (10 藤村一美/2回) エスノグラフィー：エスノグラフィーを用いた研究の特徴ならびにその手法について学修する。 (2 八杉巧/2回) 英語論文の書き方：英語でのプレゼンテーションならびに英語論文の書き方について学修する。 (5 崎山貴代/2回) 介入研究：個別・家族単位、あるいは地域全体のケアニーズの分析ならびにその介入方法やサポート体制を構築する研究方法について学修する。 (17 齊藤功/3回) 疫学研究手法：疫学研究デザインの原理と方法論、コホート研究、ランダム化試験、症例対照研究の手法を学修する。 (6 佐伯由香/1回) 研究計画のプレゼンテーションとまとめ</p>	オムニバス方式
	特別研究	<p>(概要) 地域包括ケアを推進するために様々な発達段階や健康レベルに応じた生活支援方法やケアシステムの開発を目指した研究活動を実施し博士論文を作成する。 ・研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。 ・研究倫理審査を受け、研究フィールドにおけるデータ収集を行う。 ・収集したデータの分析を行い、博士論文を作成する。</p> <p>(9 陶山啓子) 様々な健康レベルにある高齢者の健康問題、高齢者の生活の場における看護実践の質にかかわる要因やエビデンスのある看護実践について多面的に文献検討し、高齢者が住み慣れた環境で最期まで、生活機能を最大限に活用して生活するための課題を、看護方法やケア提供施設・機関などの環境の視点から明らかにし、課題解決に有用な研究指導を行う。</p> <p>(6 佐伯由香) 緩和ケアや清潔ケアなど、ケア技術の科学的根拠の探究を実験的な手法によって解明するための研究方法論についての指導を行う。また、実験から検証された看護ケア技術が、看護実践の中で、どのように機能するかを実証し、創造性、独創性を備えた論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>(7 谷向知) 地域で生活する認知症、発達障害を含む精神領域で取り組むすべての障害者へ共有できるケアアプローチの方法や仕組みを探索するとともに、地域包括ケアのなかで議論されずにいる障害者自助についても焦点をあて、具体的なケアの開発及び地域での仕組みづくりに資する研究指導を行う。</p>	共同 (一部)

<p>特別研究</p>	<p>地域包括ケア開発学特別研究</p>	<p>(8 西嶋真理子) 看護学の立場から、家族、地域全体のケアニーズの分析、フォーマル・インフォーマルなサポート体制づくり、ケアマネジメントの仕組み等のモデル開発に関する研究を行う。住民・多職種連携、支え手となる世代や子どもも含めたインクルーシブな地域開発やヘルスプロモーションの視点を加える等、公衆衛生看護学の視点から、地域包括ケア体制の構築に寄与できる研究指導を行う。</p> <p>(12 田中久美子) 在宅における看取りや排泄ケアなど中心に、在宅療養者とその家族のニーズの分析や医療・生活上の課題の抽出、ケアの開発、ケアシステムの構築を目指した研究指導補助を行う。</p> <p>(2 八杉巧) 近年、高齢者の心臓血管の手術症例が増加している。循環器疾患の周術期ケアにおける地域連携の効率化を目指すため、手術対象となる循環器疾患の病態を理解し、早期発見に地域を挙げて取り組める体制を整える必要がある。心臓手術や下肢切断などの術後に行われる下肢運動のリハビリや歩行を含む術後ケアの標準化を行い、QOL向上のための方策を探求する研究指導を行う。</p> <p>(3 薬師神裕子) 子どもがどの地域に住んでいても、適切な医療・保健・福祉を継続して受けられるように、医療・行政・教育機関と地域社会で子どもに関わる人々とのネットワーク構築のあり方を学修する。NICUを退院する子ども、在宅医療を必要とする医療依存度の高い子ども、小児慢性疾患を持つ子どもと家族の生活モデルを基盤とした在宅移行支援に重要な小児等在宅医療連携拠点事業や医療的ケア、レスパイトケアの実際について学び、小児を対象とした地域包括ケアの課題と現状を理解することを目指した研究指導を行う。</p> <p>(4 山内栄子) がん患者を含む慢性疾患を有する人々の看護の場において生起する看護事象の構造の明確化と、それらをもとに地域包括ケアの視点からの看護介入モデルの開発や看護ケアの評価方法の開発および、看護職者の看護実践能力を育むための看護学教育プログラムの開発を目指した研究指導を行う。</p> <p>(5 崎山貴代) 妊娠期から子育て期に渡る切れ目ない支援を目指す妊娠・出産地域包括支援を中心として、これらの地域包括支援が円滑に行われるように、すべてのライフステージにある女性のリプロダクティブ・ヘルス/ライツの尊重を基盤とした研究課題を探索し、ケアの開発、実践および検証に相応する研究方法を選択し、データを収集、解析し、論文の作成を目指した研究指導補助を行う。</p> <p>(1 乗松貞子) 健康に影響を及ぼす人間の自然治癒力を高めるための快適な生活環境、快適な看護ケアについて、生理・心理学的両面から科学的根拠を追求し、病院のみならず在宅療養も視野に入れた快適な生活環境の調整及び看護ケアの確立を目指す。さらに、経験的に行われている臨床現場の看護技術についてその科学的根拠を追求することを目指した研究指導を行う。</p> <p>(10 藤村一美) 地域の健康問題とその関連要因を健康レベル別、対象別に量的・質的に探求し、保健医療福祉を統合した支援方法、およびケアシステム構築のための実践ならびに研究の方向性を確立することを目指した研究指導を行う。</p> <p>(11 赤松公子) 生活に支障をきたす現象を、多角的なモデルを用いて分析する。その結果に基づき、人々の快適で健康的な暮らしを支える看護ケアを客観的に評価できる指標の作成を目指した研究指導補助を行う。</p> <p>(13 城賀本晶子) 地域で暮らす人々が成熟期後半から閉経周辺期、老年期前半にかけ、性腺機能の衰えから自覚する主観的な症状について、客観的に評価する方法を探索する。看護の立場から、このような症状とストレス負荷状態、自己効力感などの内的状況あるいは生活習慣との関連を探り、具体的なケアの在り方やQOL向上に必要な課題を研究内容として設定した研究指導補助を行う。</p>	<p>共同（一部）</p>
-------------	----------------------	---	---------------

寄附講座の設置



区分	授業科目	単位数	必修・選択の別	時期	看護学専攻博士後期課程専任教員	
					担当教員（○科目責任者）	学位
専門科目	生活支援看護開発学特講	2	必修	前期	○ 教授 佐伯由香	医学博士
					教授 八杉巧	医学博士
					教授 谷向知	博士(医学)
					教授 薬師神裕子	博士(看護学)
					教授 山内栄子	博士(保健学)
					教授 崎山貴代	博士(看護学)
					教授 乗松貞子	博士(学術)
					准教授 赤松公子	博士(保健学)
					准教授 田中久美子	博士(保健看護学)
	地域看護システム開発学特講	2	必修	前期	○ 教授 西嶋真理子	博士(保健学)
					教授 陶山啓子	博士(看護学)
					教授 藤村一美	博士(保健学)
					非常勤講師 青山ヒフミ	修士(社会学)
					非常勤講師 松浦正子	博士(看護学)
	地域包括ケア演習	2	必修	後期集中	○ 教授 陶山啓子	博士(看護学)
教授 西嶋真理子					博士(保健学)	
教授 谷向知					博士(医学)	
教授 藤村一美					博士(保健学)	
准教授 田中久美子					博士(保健看護学)	
講師 城賀本晶子					博士(医学)	
関連科目	地域医療学	2	選択	後期	○ 教授 谷向知	博士(医学)
					教授 山内栄子	博士(保健学)
					教授 川本龍一	博士(医学)
					教授 檜垣高史	博士(医学)
					教授 佐藤格夫	博士(医学)
					非常勤講師 長野敏宏	学士(医学)
					非常勤講師 櫃本真聿	博士(医学)
					○ 准教授 赤松公子	博士(保健学)
	非常勤講師 齊藤功	博士(医学)				
	応用統計学	2	選択	後期	○ 教授 佐伯由香	医学博士
					教授 山内栄子	博士(保健学)
					教授 藤村一美	博士(保健学)
					教授 八杉巧	医学博士
					教授 崎山貴代	博士(看護学)
					非常勤講師 齊藤功	博士(医学)
○ 教授 陶山啓子					博士(看護学)	
特別研究	6	必修	通年	教授 佐伯由香	医学博士	
				教授 谷向知	博士(医学)	
				教授 西嶋真理子	博士(保健学)	
				教授 八杉巧	医学博士	
				教授 薬師神裕子	博士(看護学)	
				教授 山内栄子	博士(保健学)	
				教授 崎山貴代	博士(看護学)	
				教授 乗松貞子	博士(学術)	
				教授 藤村一美	博士(保健学)	
				准教授 田中久美子	博士(保健看護学)	
				准教授 赤松公子	博士(保健学)	
				講師 城賀本晶子	博士(医学)	

科目区分	授業科目の名称	概要	備考
特別研究	地域包括ケア開発学 特別研究	<p>(概要) 地域包括ケアを推進するために様々な発達段階や健康レベルに応じた生活支援方法やケアシステムの開発を目指した研究活動を実施し博士論文を作成する。 ・研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。 ・研究倫理審査を受け、研究フィールドにおけるデータ収集を行う。 ・収集したデータの分析を行い、博士論文を作成する。</p> <p>(9 陶山啓子) 様々な健康レベルにある高齢者の健康問題、高齢者の生活の場における看護実践の質にかかわる要因やエビデンスのある看護実践について多面的に文献検討し、高齢者が住み慣れた環境で最期まで、生活機能を最大限に活用して生活するための課題を、看護方法やケア提供施設・機関などの環境の視点から明らかにし、課題解決に有用な研究指導を行う。</p> <p>(6 佐伯由香) 緩和ケアや清潔ケアなど、ケア技術の科学的根拠の探究を実験的な手法によって解明するための研究方法論についての指導を行う。また、実験から検証された看護ケア技術が、看護実践の中で、どのように機能するかを実証し、創造性、独創性を備えた論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>(7 谷向知) 地域で生活する認知症、発達障害を含む精神領域で取り組むすべての障害者へ共有できるケアアプローチの方法や仕組みを探索するとともに、地域包括ケアのなかで議論されずにいる障害者自助についても焦点をあて、具体的なケアの開発及び地域での仕組みづくりに資する研究指導を行う。</p> <p>(8 西嶋真理子) 看護学の立場から、家族、地域全体のケアニーズの分析、フォーマル・インフォーマルなサポート体制づくり、ケアマネジメントの仕組み等のモデル開発に関する研究を行う。住民・多職種連携、支え手となる世代や子どもも含めたインクルーシブな地域開発やヘルスプロモーションの視点を加える等、公衆衛生看護学の視点から、地域包括ケア体制の構築に寄与できる研究指導を行う。</p> <p>(12 田中久美子) 在宅における看取りや排泄ケアなど中心に、在宅療養者とその家族のニーズの分析や医療・生活上の課題の抽出、ケアの開発、ケアシステムの構築を目指した研究指導補助を行う。</p> <p>(2 八杉巧) 近年、高齢者の心臓血管の手術症例が増加している。循環器疾患の周術期ケアにおける地域連携の効率化を目指すため、手術対象となる循環器疾患の病態を理解し、早期発見に地域を挙げて取り組める体制を整える必要がある。心臓手術や下肢切断などの術後に行われる下肢運動のリハビリや歩行を含む術後ケアの標準化を行い、QOL向上のための方策を探求する研究指導を行う。</p> <p>(3 薬師神裕子) 子どもがどの地域に住んでいても、適切な医療・保健・福祉を継続して受けられるように、医療・行政・教育機関と地域社会で子どもに関わる人々とのネットワーク構築のあり方を学修する。NICUを退院する子ども、在宅医療を必要とする医療依存度の高い子ども、小児慢性疾患を持つ子どもと家族の生活モデルを基盤とした在宅移行支援に重要な小児等在宅医療連携拠点事業や医療的ケア、レスパイトケアの実践について学び、小児を対象とした地域包括ケアの課題と現状を理解することを目指した研究指導を行う。</p> <p>(4 山内栄子) がん患者を含む慢性疾患を有する人々の看護の場において生起する看護事象の構造の明確化と、それらをもとに地域包括ケアの視点からの看護介入モデルの開発や看護ケアの評価方法の開発および、看護職者の看護実践能力を育むための看護学教育プログラムの開発を目指した研究指導を行う。</p>	

<p>特別研究</p>	<p>地域包括ケア開発学 特別研究</p>	<p>(5 崎山貴代) 妊娠期から子育て期に渡る切れ目ない支援を目指す妊娠・出産地域包括支援を中心として、これらの地域包括支援が円滑に行われるように、すべてのライフステージにある女性のリプロダクティブ・ヘルス/ライツの尊重を基盤とした研究課題を探求し、ケアの開発、実践および検証に相応する研究方法を選択し、データを収集、解析し、論文の作成を目指した研究指導補助を行う。</p> <p>(1 乗松貞子) 健康に影響を及ぼす人間の自然治癒力を高めるための快適な生活環境、快適な看護ケアについて、生理・心理学的両面から科学的根拠を追求し、病院のみならず在宅療養も視野に入れた快適な生活環境の調整及び看護ケアの確立を目指す。さらに、経験的に行われている臨床現場の看護技術についてその科学的根拠を追求することを目指した研究指導を行う。</p> <p>(10 藤村一美) 地域の健康問題とその関連要因を健康レベル別、対象別に量的・質的に探求し、保健医療福祉を統合した支援方法、およびケアシステム構築のための実践ならびに研究の方向性を確立することを目指した研究指導を行う。</p> <p>(11 赤松公子) 生活に支障をきたす現象を、多元的なモデルを用いて分析する。その結果に基づき、人々の快適で健康的な暮らしを支える看護ケアを客観的に評価できる指標の作成を目指した研究指導補助を行う。</p> <p>(13 城賀本品子) 地域で暮らす人々が成熟期後半から閉経周辺期、老年期前半にかけ、性腺機能の衰えから自覚する主観的な症状について、客観的に評価する方法を探索する。看護の立場から、このような症状とストレス負荷状態、自己効力感などの内的状況あるいは生活習慣との関連を探り、具体的なケアの在り方やQOL向上に必要な課題を研究内容として設定した研究指導補助を行う。</p>	
-------------	---------------------------	---	--

入学から修了までの学修プロセスの概要

年次	月	内容
1年次	4月	<ul style="list-style-type: none"> 入学時オリエンテーション（教育課程、履修方法、研究の進め方、学位論文の審査方法など）
	5月	<ul style="list-style-type: none"> 主研究指導教員・副指導教員の申請 履修登録：指導教員と相談して履修計画を策定する。
	6月	<ul style="list-style-type: none"> 研究課題の焦点化、予備研究の必要性などの検討
	10月	<ul style="list-style-type: none"> 予備研究の実施、博士論文研究計画書の作成
	2月	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文研究計画書の発表および研究計画書審査（早期提出者）
	3月	<ul style="list-style-type: none"> 看護学専攻倫理審査委員会への申請および審査（早期提出者） 研究開始（早期提出者）
2年次	5月	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文研究計画書の発表および研究計画書審査
	6月	<ul style="list-style-type: none"> 看護学専攻倫理審査委員会への申請および審査 研究開始
3年次	9月	<ul style="list-style-type: none"> 予備審査
	1月	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文発表会 博士論文の提出
	2月	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文の審査および最終試験
	3月	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文原稿提出 学位授与

履修モデル

区分	科目名	配当年次	単位数	必修・選択 の別	履修要件	モデルA	モデルB	モデルC
専門科目	生活支援看護開発学特講	1	2	必修	◎	◎	◎	◎
	地域看護システム開発学特講	1	2	必修	◎	◎	◎	◎
	地域包括ケア演習	1	2	必修	◎	◎	◎	◎
関連科目	地域医療学	1	2	選択	○		○	
	応用統計学	1	2	選択	○			○
	研究方法特講	1	2	選択	○	○		
特別研究	地域包括ケア開発学特別研究	1	6	必修	◎	◎	◎	◎
合計					14単位以上	14単位	14単位	14単位
モデルA:	人々が快適に過ごすことができるように看護実践におけるエビデンスを探求し、新たなケア技術の開発ができる能力を養う。							
モデルB:	地域医療における看護職の役割拡大の方向性を見定め、ライフサイクルに応じた生活支援モデルを開発する能力を養う。							
モデルC:	地域社会のニーズを科学的に分析し、ニーズに応じた社会資源をシステム化し、政策へと発展させる能力を養うことに焦点を置いた履修モデルとする。							

研究指導の標準的なスケジュール

年次	学期	大学院生の研究活動	研究指導	大学の動き
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> 研究課題の焦点化、予備研究の必要性などの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員の決定 研究課題の焦点化および予備研究の必要性などについて指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究科学務委員会で決定
	後期	<ul style="list-style-type: none"> 予備研究の計画・実施 博士論文研究計画書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 予備研究の計画および実施について指導する。 博士論文研究計画の立案について指導する。 	
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文研究計画書の発表および研究計画書審査 博士論文研究計画書の修正 看護学専攻倫理審査委員会への申請および審査 研究開始 	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文研究計画書発表会のプレゼンテーションについて指導する。 研究計画書の修正について指導する。 倫理審査委員会における審査結果に基づいて指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画書の審査 研究科学務委員会での審査結果の審議・承認 倫理審査委員会での審査・承認
	後期	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文研究の遂行 	<ul style="list-style-type: none"> 適切に研究が遂行されているか指導する。 	
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文研究の遂行 博士論文の作成 予備審査 	<ul style="list-style-type: none"> 適切に研究が遂行されているか指導する。 博士論文の作成について指導する。 博士論文の修正について指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文の審査
	後期	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文発表会 博士論文の提出 博士論文の審査および最終試験 博士論文原稿提出 学位授与 	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文発表会のプレゼンテーションについて指導する。 学術雑誌への投稿について指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究科学務委員会での博士論文審査・最終試験の合否決定

愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻研究倫理審査委員会規程

平成17年8月18日
制 定

(目的)

第1条 愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻（以下「看護学専攻」という。）で実施しようとする「人を対象とした研究」について（以下「当該研究」という。）、「ヘルシンキ宣言」、社団法人日本看護協会の「看護研究における倫理指針」、及び「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の主旨に沿って、研究を実施する前に、倫理面に関する審査を行い、その適否を評価することを目的とする。

(設置)

第2条 前条の目的を達成するため、看護学専攻に愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻研究倫理審査委員会（以下「審査会」という。）を置く。

(審査の対象)

第3条 審査会は、当該研究を実施しようとする者から申請された当該研究の目的及び実施計画等を審査する。ただし、審査会以外の愛媛大学医学部に設置されている倫理に関する委員会の対象となる研究については、この限りでない。

(組織)

第4条 審査会は次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 看護学専攻の教授 3名
 - (2) 看護学専攻の准教授 1名
 - (3) 看護学分野以外の学識経験者 1名
- 2 審査会に委員長を置き、前項第1号の委員のうちから選出するものとする。
- 3 第1項各号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により委嘱された委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員及び委員長の選出は、看護学専攻会議（以下「専攻会議」という。）の議を経て、看護学専攻長（以下「専攻長」という。）が委嘱する。
- 5 審査会は審査にあたって、委員長の判断に基づき、申請者あるいは指導教員の出席を求め、申請内容等の説明及び審議に加えることができる。ただし、申請者あるいは指導教員は、当該研究の審査の判定に加わることはできない。

(議事)

第5条 審査会は、原則として毎月開催し、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開くことができない。

(審査)

- 第6条 審査会は、本審査会の目的に沿って審査し、文書により適否について回答する。審査にあたっては、特に次の各号に掲げる点について留意する。
- (1) 当該研究を実施する過程で生じる可能性のある倫理問題及び研究結果から派生する可能性のある倫理問題を明らかにする。
 - (2) 当該研究に参加する者の人権を擁護し、個人情報の守秘方法を明らかにする。
 - (3) 当該研究の参加者に研究目的・研究方法・研究結果の取り扱いなどを十分に説明して理解と同意を得る方法を明らかにし、その事実を明確にする。

2 当該研究の適否は、以下のように判定する。

- (1) 非該当
- (2) 承認
- (3) 条件付き承認
- (4) 不承認（再審査）

3 審査結果が前項第3号又は第4号である場合は、その条件又は不承認（再審査）の理由等を記載しなければならない。

4 第2項第3号の判定を受けた者は、当該条件に基づく修正を行い、委員長の承認を受けてから研究を開始するものとする。

5 第2項第4号の判定を受けた者は、翌月以降の審査会において再度審査を受けることができる。

6 審査結果が第2項第2号と判定を受けた者又は第4項により委員長の承認を受けた者に対し、研究倫理審査承認証明書（様式5）を研究科長が発行するものとする。

7 承認された研究計画について変更が承認された者に対し、研究計画変更承認証明書（様式7）を研究科長が発行するものとする。

8 委員長は、審査会の審査結果を専攻会議に報告しなければならない。

（申請手続）

第7条 当該研究の審査を申請しようとする者は、以下の書類及び様式に必要な事項を記入し、専攻長に提出しなければならない。

- (1) 研究倫理審査申請書（様式1）
- (2) 研究計画書
- (3) 研究参加依頼書
- (4) 研究参加同意書（様式2）
- (5) 研究参加同意撤回書（様式3）
- (6) 研究倫理チェックリスト（様式4）

（変更手続）

第8条 承認された研究計画について変更がある場合は、研究計画変更申請書（様式6）に必要な事項を記入し、専攻長に提出しなければならない。

（権則）

第9条 この規程に定めるもののほか、審査会に関し必要な事項は、専攻会議の審議を経て別に定める。

附 則

この規程は、平成17年8月18日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年11月29日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

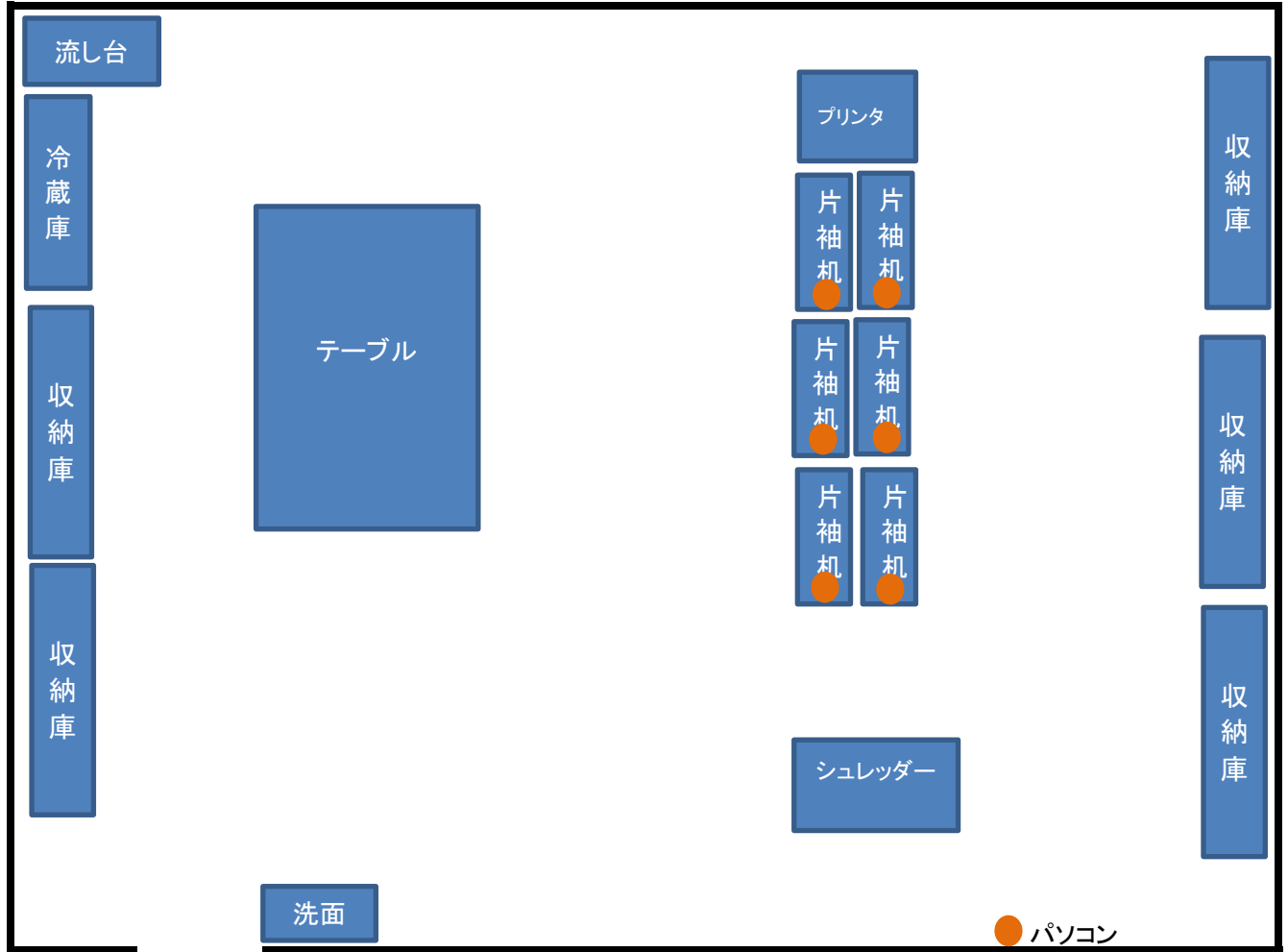
この規程は、平成25年12月26日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

大学院生室の見取り図

5階 院生研究室 43m²



学部教育から博士後期課程に至る一環した教育方針

地域包括ケアシステムの構築

獲得する能力

- ・研究遂行力 ⇒ 地域や個人の抱える課題を抽出し、解決策を提案し、実践できるリーダーを養成
- ・看護実践力

大学院医学系研究科看護学専攻博士後期課程 (R2年度設置予定 入学定員2名)

【博士後期課程の目的】地域包括ケアにかかわる看護職のリーダーを養成する
より専門的な看護力の涵養

地域包括ケア開発学コース

地域包括ケア開発学特別研究

← 演習での実践結果を反映

関連科目：自らの専門分野に応じた学修

地域看護開発学領域

- ・地域資源を活用した効果的なケアシステムの開発に必要な知識と技術の修得
- ・リーダーシップの獲得 ・マネジメント能力の獲得

生活支援看護開発学領域

- ・健康レベルに応じた生活支援と快適ケア着技術の開発と研究に必要な知識と技術の修得

地域包括ケア演習

<進学>
他大学院

大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程 (H10年度開設 H32年度名称変更)
(入学定員12名 H32年度定員△4)

【博士前期課程の目的】多様なケアニーズに柔軟に対応できる資質を備えた高度な
看護専門職者を養成する
基礎的な看護研究方法の修得

- ・基盤実践看護学科目：基礎看護学、成人看護学、小児看護学、母性看護学
- ・地域健康システム看護学科目：地域看護学、高齢者看護学、在宅看護学・・・
- ・老人看護専門看護師養成プログラムコース (CNSコース) H28年度設置

<社会人>
・医療機関
・企業
・地方自治体

高度看護実践

他大学
卒業生

医学部看護学科 (H6年度開設 入学定員60名)

【看護学科の目的】看護・保健の専門職としての指導的役割を担う人材を育成する
看護師・保健師の養成

- ・教職科目、保健師科目、愛媛の地域包括ケアを推進する看護職の育成プログラム
- ・看護の統合発展的領域：看護教育学、生命倫理、統合と実践、死生学演習、看護研究
- ・看護の専門的領域：各論実習 (母性・小児・成人・老年・精神・在宅)
- ・看護の基礎的領域：基礎看護学 基礎看護学実習
- ・専門基礎科目、共通教育科目、健康に関する科目、社会に関する科目

<社会人>
・医療機関
・企業
・地方自治体

看護実践

医学部基本理念

患者から学び、患者に還元する教育・研究・医療

愛媛大学の使命
(愛媛大学憲章)

自ら学び、考え、実践する能力と次代を担う誇りをもつ人間性豊かな人材を社会に輩出する

時間割(博士前期課程・博士後期課程(◎は博士後期課程科目を示す。下線科目は関連科目))
前期

時限	月	火	水	木	金	土
1						看護研究方法論
2						看護研究方法論
3			高齢者看護学特論Ⅱ (隔週) 高齢者生活援助論 (隔週)	高齢者支援システム論 (隔週)		看護倫理 (隔週)
4			高齢者看護学特論Ⅱ (隔週) 高齢者生活援助論 (隔週)	高齢者支援システム論 (隔週)		看護倫理 (隔週)
5						
6	フィジカルアセスメント 老年精神地域包括ケア学 特論 (隔週)	高齢者看護学特論Ⅰ (隔週) 成人看護学特論(隔週) 看護研究方法論	高齢者病態治療論 (隔週) 統計学 (隔週)	在宅看護学特論 (隔週)	病態生理学	
7	◎生活支援看護 開発学特講		◎地域看護システム 開発学特講		◎地域包括ケア 開発学特別研究 (隔週)	
集中	看護管理論 高齢者実践看護実習Ⅱ	受講生 と相談 の上決 定	在宅高齢者看護学特論 地域精神看護学特論 看護生理学特論 基礎看護学Ⅰ特論 基礎看護学Ⅱ特論 基礎看護学Ⅲ特論 リプロダクティブヘルス 小児発達看護学特論 看護理論		備考	

時間割(博士前期課程・博士後期課程(◎は博士後期課程科目を示す。下線科目は関連科目))
後期

時限	月	火	水	木	金	土
1					高齢者看護学特別演習Ⅱ (隔週)	地域看護学特論(隔週) 看護研究演習(集中) 看護政策論(隔週)
2					高齢者看護学特別演習Ⅱ (隔週)	地域看護学特論(隔週) 看護研究演習(集中) 看護政策論(隔週)
3				在宅看護学特別演習(隔週)		地域看護学特別演習(隔週) 看護研究演習(集中)
4				在宅看護学特別演習(隔週)		地域看護学特別演習(隔週) 外科系病態生理学特論(隔週) 外科系病態生理学特別演習(隔週)
5						外科系病態生理学特論(隔週) 外科系病態生理学特別演習(隔週)
6	地域健康疫学特別演習 (隔週) 老年精神地域包括ケア学特別演習(隔週)	高齢者看護学特別演習Ⅰ(隔週) 成人看護学特別演習(隔週)	看護教育論(隔週) 地域包括ケア基礎論(隔週) <u>◎研究方法特講(隔週)</u>	外科系病態生理学特論(隔週) 外科系病態生理学特別演習(隔週) 臨床薬理学 <u>◎地域医療学(隔週)</u>	地域健康疫学特論(隔週) <u>◎応用統計学(隔週)</u>	
7	地域健康疫学特別演習 (隔週) 老年精神地域包括ケア学特別演習(隔週)	高齢者看護学特別演習Ⅰ(隔週) 成人看護学特別演習(隔週)	看護教育論(隔週) 地域包括ケア基礎論(隔週) <u>◎研究方法特講(隔週)</u>	看護政策論(隔週) <u>◎地域医療学(隔週)</u>	地域健康疫学特論(隔週) <u>◎応用統計学(隔週)</u>	

<p>集中</p>	<p>コンサルテーション論 生体情報学 高齢者実践看護実習 I ◎地域包括ケア演習</p>	<p>受講生 と相談 の上決 定</p>	<p>在宅高齢者看護学特別演習 地域精神看護学特別演習 看護学生理学特別演習 基礎看護学Ⅰ特別演習 基礎看護学Ⅱ特別演習 基礎看護学Ⅲ特別演習 小児発達看護学特別演習 リプロダクティブヘルス看護学特別演習 ◎地域包括ケア開発学特別研究</p>	<p>備考</p>	
-----------	--	---	---	-----------	--